

目次

功労賞を受賞して.....	青森市民病院	野坂 亨治	1 -
功労賞を受賞して.....	むつ総合病院	米沼 順子	2 -
奨励賞を受賞して.....	八戸市立市民病院	大井 惇矢	2 -
奨励賞を受賞して.....	青森県立中央病院	佐藤 舞	3 -
奨励賞を受賞して.....	青森市民病院	澤谷 泰子	3 -
奨励賞を受賞して.....	青森県立中央病院	田嶋 育子	4 -
名誉会員証を頂いて.....	六ヶ所村地域家庭医療センター	川村 多蔵	4 -
青臨技創立70周年を祝して.....	八戸市立市民病院	山崎 正夫	5 -
令和4年度第2回タスク・シフト/シェアに関する実技講習会報告.....	八戸赤十字病院	大石 峻也	6 -
令和4年度青臨技学術部門研修会報告.....	弘前市医師会健診センター	工藤 さおり	7 -
令和4年度青臨技(第1回、第2回、第3回)臨床一般部門研修会報告..	八戸赤十字病院	阿部 紀恵	8 -
令和4年度青臨技臨床血液部門研修会報告.....	つがる総合病院	坂本 愛実	8 -
令和4年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告.....	八戸市立市民病院	小島 瞳	9 -
令和4年度青臨技臨床微生物/染色体・遺伝子部門合同研修会報告.....	むつ総合病院	玉澤 佳大	10 -
令和4年度青臨技第4回臨床生理部門研修会報告.....	弘前大学医学部附属病院	武田 美香	10 -
令和4年度青臨技生物化学分析部門研修会報告.....	青森市民病院	三上 悠輔	11 -
令和4年度第6回理事会議事録.....			12 -
令和4年度第7回理事会議事録.....			15 -
令和5年度第1回理事会議事録.....			19 -
令和5年度第2回理事会議事録.....			21 -

令和4年度受賞者より

功労賞を受賞して

青森市民病院 医療技術局 臨床検査部 野坂 亨治

この度は功労賞という賞をいただき心より感謝申し上げます。

私も青森県臨床検査技師会ではかなりの古株になりますので、ここで少し昔話をしたいと思います。

私の出身校は、今は無き北里学園衛生科学専門学院(十和田市)で、三十数年前に青森市民病院へ入職しました。

当時の技師会は母校の諸先輩方が常連の如く幹部クラスに名を連ねており、そんな時に北里の後輩が入ってきたものですから格好の餌食となるのは目に見えていて、午後の仕事が終わって一息ついている私のところに「おい野坂、これやっといてくれ」と雑用から何からいろいろなものを持ってきてくれました。(くれたのか?)

今思い返すとそれは研修会の案内文書だったり、総会の予算書だったような気がします。

まあ私も「いいっすよ」と気軽に受けてしまうのですから、どっちもどっちだったのでしょう。

まったく半強制的なお手伝いでしたが、結果的に技師会という組織にハマリ、人を覚え、組織の仕組みや研修会・学会などの企画の仕方などを学びました。

強引ゴリ押しな先輩と、何も感じないまま受け入れる後輩の連携で成り立っていた古き善き技師会の話が令和の現代と同じ訳はありませんが、それでもいろいろな経験は自分自身を助け、ためになることは変わらないと思います。この先の出来事で、技師会の経験が役に立つ事もあるやもしれません。

そんな時のために皆さんも技師会を通じて、いろいろな経験をしてほしいと思います。

そして医療業界で仕事をしている以上、臨床検査技師として患者さんのために責任を持って頑張っていたきたいと思います。

功労賞を受賞して

むつ総合病院 米沼 順子

この度は青森県臨床検査技師会功労賞を頂きましてありがとうございます。受賞にあたり、これまで支えて下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

下北はご存じのように青森県の最北端に位置し、どこへ行くのも遠く、今でこそWeb会議はあたりまえですが、以前は地理的に不便ということを経験者の方々にはいろいろと配慮していただきました。それ故に自分がこの賞に値する功績を残したとは到底思われず大変恐縮しております。

昨年まで生理検査に所属していましたが、配属当時は一番苦手な分野で毎日が必死でした。職場の人たちにも恵まれ、気が付けば生理検査が大好きになっていて、2008年から2011年まで生理の副部門長をやらせていただきました。この時の繋がりを通じて人脈を作ることができ、仕事のことでいろいろ相談にのってもらったことが私にとってとても貴重な経験となっています。また、2年という短い期間でしたが、理事の中心にいる人たちの苦労を目の当たりにして、本当に頭が下がる思いです。これからも青森県臨床検査技師会の発展を陰ながら応援させていただきます。本当にありがとうございました。

奨励賞を受賞して

八戸市立市民病院 大井 惇矢

この度は青臨技奨励賞をいただき、奥沢会長をはじめ青臨技会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

私は2014年より検査技師人生がスタートし、10年目を迎えました。主に血液検査、輸血検査を担当し、積極的にスキルアップに取り組む過程で多くの仲間を作り、また認定資格を取得することができました。これらの行動は、4年目に参加した研修会でいただいた、ある一言をきっかけに始まりました。「質問することは発表者・講師に対する礼儀だ」という言葉です。私はこの言葉を聞いたときに、非常に感銘を受けました。それ以降、どの研修会・学会でも必ず最低1つは質問するようにしており、その結果多くの方に私を認知していただくことができ、多くの仲間を作ることができました。また、質問するだけでなく自分も積極的に発表するようになり、現在に至ります。

これまでは自分のスキルアップを中心に力を入れてきましたが、今後は「人材育成」に力を入れたいと考えております。やはり高いスキルは1人だけで所有するのではなく、多くの方で共有すべきです。これは1人だけが高いスキルを持っていた場合、その1人が不在のときには検査レベルが低くなってしまい、最終的に患者に不利益を被る可能性があるためです。そのためにも自施設はもちろん、技師会活動を通して多くの技師へ私のもつスキルを伝えていきたいと思います。そのうえで、さらなる自分のスキルアップも目指していきます。

全国をみると上には上があり、まだまだ未熟者であると自覚しておりますので、引き続き諸先輩方には変わらずご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。この度は、誠にありがとうございました。

奨励賞を受賞して

青森県立中央病院 佐藤 舞

この度は青臨技奨励賞を頂き誠にありがとうございます。奥沢会長をはじめ青臨技会員の皆様、当院検査部の皆様に感謝申し上げます。

10年ほど前に東青支部生理検査部門員だった当院スタッフが産休に入り、部門員を引き継いだことをきっかけに技師会にスタッフとして関わるようになりました。青臨技生理検査研修会では実務員として他支部の部門員の方と知り合いになれ、研修会や学会に参加する楽しみが増えました。また部門員の特権で私が学びたい領域の研修会を開催したり、多くの方々の協力を得て楽しく部門員を務めました。

2019年には青臨技生理検査研修会で呼吸機能検査の講師を依頼され、初めて他院の技師さんの前で講演をしました。とても緊張しましたが、高校2年生まで教師を目指していたので、夢が1つ叶ったようで楽しかったことを覚えています。素敵なきっかけをくださった逆井元生理検査部門長、田嶋元生理検査副部門長に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

呼吸機能検査を苦手とする技師は多いですが、コツをつかんで分かるととてもおもしろい検査です。今までの経験や学習をもとに、皆さんの疑問や不安を解決し、呼吸機能検査を好きになるきっかけが作れるよう、他領域においても青臨技の発展に少しでも貢献できるよう精進して参りたいと思います。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

奨励賞を受賞して

青森市民病院 澤谷 泰子

この度は青臨技奨励賞を頂き誠にありがとうございます。受賞にあたり、奥沢会長をはじめ役員の皆様、当院臨床検査部スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

今回奨励賞を受賞することができたのは、感染制御部門に関する学術活動によるものが大きかったと思います。平成30年に当時感染制御部門長をしておられた弘前市医師会健診センターの月足さんから、精度管理委員をやってみないかとお声がけいただきました。当時は自分に務まるかという不安よりむしろ、他施設の状況を知って日々の業務に生かせるいい機会かもしれないという好奇心が勝りお引き受けしました。いざ引き受けてみて、自分の知識不足を痛感しましたが、グラム染色における他施設の臨床に有用な結果報告コメントを見て、とてもいい刺激になり大変勉強になりました。

令和2年には部門長をお願いできないかとお声がけいただきましたが、その時はあまりの重圧に、「自分には無理！」と決めつけ、最後まで渋ってしまいました。初年は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど活動実績がなかったものの、任期中に研修会を開催したり、座長を務めたり、自分一人では決して成し得なかったことばかりで、当時の部門員の方々および、当院検査部の方々に心から感謝申し上げます。これまでの経験を生かし、今後も後輩の育成や技師会の学術活動に少しでも貢献できるよう精進していきたいと思います。

最後に、これからの青森県臨床検査技師会の益々のご発展を心からお祈りいたします。この度は、誠にありがとうございました。

奨励賞を受賞して

青森県立中央病院 田嶋 育子

この度は、青臨技奨励賞を頂きまして、ありがとうございます。この場をお借りしまして、奥沢会長はじめ選考に携わって頂いた理事の皆様、ともに活動して頂いた生理機能検査部門の会員の皆様、私とともに働いて支えてくれている職場の仲間に、厚く御礼申し上げます。

私の生理機能検査での始まりは、新卒で入職した地元八戸の病院で、国立循環器病センターへ研修に出していただいたことでした。何もわからないまま、日本の医療最前線に飛び込み、あまりの衝撃に毎日必死に研修させていただいたことを思い出します。臨床検査技師がこんなにも診断、治療に役立つということ、最前線を経験した感動、超音波検査の奥深さに魅了され、今日まで突っ走ってまいりました。その中で技師会部門員や副部門長として、会員の皆さんと情報交流を通じ、各施設での努力や工夫に刺激を受け、課題や苦労話に共感することができました。さらに青森県での生理機能検査分野を底上げしたいという思いを強く持ち、部門長も務めさせていただきました。部門長の時期は、コロナ禍真っ只中であり、会員とはZOOMがメインの活動となってしまいました。意見交換の場が少なく残念でしたが、今まで関わって頂いた皆さんとの交流を切らすことなく、技師会活動を通して皆さんにご協力いただき、感謝しております。また精度管理調査や研修会を通じて、新しいガイドライン等の情報提供ができたことも、青森県での生理検査部門のレベルアップにつながったのではないかなと感じています。

最後に、今後は技術向上や後進育成ができる技師会活動に、多くの会員に参加してもらえるよう、微力ではありますが、尽力させていただくことを誓い、受賞の挨拶とさせていただきます。

名誉会員証を頂いて

六ヶ所村地域家庭医療センター 川村 多蔵

この度青臨技名誉会員の証を頂き誠にありがとうございました。思いもよらぬ証であり大変ありがたいことと思っています。また平成4年春の叙勲に際しまして瑞宝双光章を受章させていただきました。この紙面をお借りして報告とお礼をさせていただきます。

職場であれ技師会であれ、「やれる時にやれる事に対してベストを尽くす」が自分のポリシーです。青臨技では学会発表はもちろんのこと、血液部門班長、精度管理委員、事務局長、東北学会事務局長、副会長とやらせていただきました。忙しい時もありましたが、いい仲間と仕事ができ大変いい経験をさせていただきました。

十和田市立中央病院での42年間の勤務を完了し、現在はへき地医療、地域医療のお手伝いのできたらとの思いで、六ヶ所村地域家庭医療センターにて勤務しております。片道60km、約80分の通勤は大変なところもありますが、遣り甲斐を感じて毎日を過ごしております。

今後はこの証に恥じることはないよう、また皆さんにいつまでも慕われるような存在であり続けたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひします。

青臨技創立 70 周年を祝して

八戸市立市民病院 山崎 正夫

青臨技創立 70 周年記念誌の発刊にあたりお祝い申し上げます。青臨技の前身の日本衛生検査技術者会青森県支部が昭和 27 年に設立して 70 年を経つたと聞いています。

私は技師会活動するにあたり、4 名の会長の下で会務を行いました。川島 博会長（以下敬称略）、一戸茂人、中田伸一、横山慶一で色々なことを教わりながら非常にやり易い方ばかりでした。

川島 博の時青臨技創立 40 周年の式典、祝賀会、記念誌の発行で式典、祝賀会の写真撮影、歴代会座談会の延べ 2 時間のテープ起こしをし、直に歴代会長の生の声を聞きました。今でも忘れられない思い出です。

一戸茂人の時、自分は三八支部長で次の東北臨床検査学会は八戸で開催して欲しいとの指示があったと記憶している。昭和 50 年に八戸で東北臨床検査学会が開催されてから、それ以降は青森市、弘前市での開催であったからと思う。

中田伸一の時、三八支部長で青臨技創立 50 周年で式典・祝賀会がホテル青森で行われましたが、三八支部で貸切バスで八戸から青森まで会員が 40 名ほど参加しました。そして、副会長の時公益部長として会長の命を受け八戸市で「AED 講習会」を開催しました。会場は八戸市民病院の講堂とモールで講師は当時八戸市民病院救命センター長の今明秀氏（現八戸市立市民病院々長）と救命看護師、八戸市消防隊の方々でした。午前、午後の部に分けて百数十名位の参加で修了証明証も出しました。参加者は八戸市立市民病院が主催していると思いを違えて方が多く、何度かマイクで青臨技主催であることアピールしました。その前、青森県医務薬務課から青森朝日放送が取材するとの連絡が入り取材班きていました。後日、テレビで放映されましたが「青臨技」と字面はなく、今明秀先生がかっこよく映っていました。この事業は青臨技の一衛生思想の普及啓発及び地域保健事業への協力に合致するものと思う。

横山慶一の時副会長学術部長で青臨技の標準化委員会が長年推し進めていた、「基準範囲の統一」がある程度出来上っていて、あとは青森県医師会との協議が残っていました。何故、青森県医師会が？と思う方いるとおもいますが、検査データの実質的利用者の医師の理解がないと広まらないからでした。その協議は当時の印象として、健診センターの医師には基準範囲の意味があまり伝わっていなかったと思います。当然のごとく、健診で使う判断基準と我々が使う基準範囲は若干のずれがあるので、あまりいい返事は帰って来なかったと記憶しています。ただ、弘前大学医学部附属病院臨床検査部々長保嶋部長、県医師会の秋山理事は積極的推し進めてくれました。ということで青森県医師会のお墨付きをもらったことになった次第です。これも一戸茂人がいう青臨技が他県より先んじて取り組んで来た精度管理事業の一環であると考えていました。

自分が会長の時は、また、色々ありました。まず先ほど第 51 回東北医学検査学会の開催でした。35 年ぶりの八戸市での開催、市内の青森労災病院、八戸赤十字病院の協力をえて何とか無事終了したと思っています。その、次の年の 3 月に東日本大震災があり、数日後の青臨技総会は未開催でした。「頑張ろう東北！」をスローガンに会務遂行しました。その後の青臨技理事会で義援金を日臨技を経て送りました。県単位での義援金としてはかなり高額でしたが理事会では全くだれ一人異議はなく通りました。非常に感謝するしだいでした。

次に社団法人青森県臨床衛生検査技師会から一般社団法人青森県臨床検査技師会返事への移行がありました、これは青森市民病院の齋藤浩治の多大な労で何とか移行できたと思っています。

自分は多くの方々に支えられながら一法人としての責務をはたしてきた 16 年間でした。技師会の仕事として、学術・公益事業の遂行の他に一記録を正確に残し伝える一があると思う。これは臨床検査技師の業務に通じることでもあると考える。

最後に青臨技会の今後の発展を祈念し、そして、若手の技師の方々の活躍を期待します。

【研修会報告】

令和4年度第2回タスク・シフト/シェアに関する実技講習会報告

八戸赤十字病院 大石 峻也

令和4年12月25日にタスク・シフト/シェアに関する実技講習会が開催されました。講習内容は8項目あり、3グループに分かれて3つのブースをローテーションする形で行われました。

まず私のグループは①持続皮下グルコース検査 (CGM)、②喀痰採取のブースからスタートしました。CGMの研修ではグループの中で私が被検者となり、穿刺役の方にCGM機器を取り付けていただきました。機器の装着の際にバチン、という大きな音がしましたが痛みはなく、センサーの針が刺さっている感覚はほとんどありませんでした。スマホに専用アプリを入れてセンサーにかざすだけグルコース値の変動を確認できます。2週間モニタリングできるとのことでしたが、私は1日だけ自身のグルコース値の変動を観察してみました(至って正常でした)。喀痰採取では、経口、経鼻、気管カニューレの3カ所からの吸引方法を学びました。

昼食時間では③アフレーシスについての動画を視聴し、午後は④肛門内圧検査、⑤運動誘発電極に関する事象、⑥内視鏡生検鉗子における検体採取の講習から再開しました。誘発電極に関しては動画視聴のみの研修でしたが、肛門内圧検査では内圧測定カテーテルを肛門部ユニットに挿入する研修、内視鏡での検体採取は生検鉗子で疑似ポリープを採取する研修でした。

最後は⑦静脈路確保および電解質輸液、⑧造影超音波検査についての講習でした。私の施設では臨床検査技師も採血を行っているため、なじみのある項目でした。

短い時間の中で8項目もの研修が行われ、ボリュームミーな内容ではありましたが、講師の先生方および運営スタッフの皆様のおかげで非常に有意義な時間となりました。ありがとうございました。私はまだ入社して1年目で覚えるべきことがたくさんあり大変ではありますが、検査技師として活躍できる場面が増えていくことは非常にうれしく、やりがいを感じます。今回学んだことを十分に復習し、実際の現場で活躍できるよう努めます。



静脈路確保の研修風景



内視鏡用生検鉗子での検体採取の研修風景

令和4年度青臨技学術部門研修会報告

弘前市医師会健診センター 工藤 さおり

2020年からのコロナ禍により、各研修会・学会などのほとんどがリモート開催でしたが、今回久々に行われた現地開催の研修会に参加したので報告します。

2022年7月3日(日)、青森ケーブルテレビ本社において「令和4年度青臨技学術部門研修会」が行われました。参加人数は25名でした。感染対策として会場入り口には手指消毒剤が置かれ、席の間隔も広く、安心して受講することができました。

講演1は「炎症性腸疾患の血清バイオマーカーLRGの有用性について」積水メディカル カスタマーサポートセンター 野上里恵先生のご講演でした。

炎症性腸疾患(IBD)とは、腸に炎症をきたす疾患の総称ですが、一般的にはクローン病と潰瘍性大腸炎のことを指す場合が多いです。IBDは活動期と寛解期を繰り返します。血清中のロイシンリッチ α 2グリコプロテイン(LRG)は炎症性腸疾患の活動期の判定を補助する新しい分子マーカーです。潰瘍性大腸炎・クローン病において、CRP及びLRGの組み合わせは活動期の判定補助に有用とのことでした。

講演2は「そこが知りたい便検査!(便中カルプロテクチンを中心に)」栄研化学マーケティング部 志賀常雄先生のご講演でした。

カルプロテクチンは、好中球に豊富に含まれる炎症応答のカルシウム結合タンパク質です。腸管に炎症がある場合、好中球の腸管への移行に比例し、糞便中カルプロテクチン値が上昇します。このため便中カルプロテクチンの測定は、炎症性腸疾患の診断補助および病態把握の補助に有用です。栄研化学のOCセンサーPLEDIAでは、便潜血用採便容器を用いて、便潜血・カルプロテクチン・トランスフェリンの3項目同時測定が可能とのことでした。

講演3は「同一成分の無染色とS染色のダブル鏡検法」順天堂大学医療科学部臨床検査学科 宿谷賢一教授のご講演でした。

宿谷教授は、一般検査分野で長年数々の講演や著作を行い、われら迷える一般検査担当者を教え導いておられる知らぬ者はいない大先生のお1人です。阿部一般部門長による、微に入り細を穿つご略歴紹介は、教授も感動される素晴らしい内容でした。

「全く同じ細胞を、初めは無染色像で見て、次に染色像を見る」という画期的な講演で、無染色標本・染色標本それぞれの細胞判定ポイントを解説していただきました。細胞質の質感は無染色像が分かりやすく、核内構造や円柱は染色像が分かりやすかったです。改めて無染色標本と染色標本の両方を鏡検する重要性を認識しました。

今回の研修会は、ほぼ3年ぶりの現地開催研修会であったため、実行委員の方々は感染対策に大変なご苦労をされたと思います。ありがとうございました。そして新型コロナが完全に収束していない中、来青していただいた演者の先生方に深く感謝申し上げます。

研修会で得た知識を、日頃の業務やコントロールサーベイに活かしたいと思います。

令和4年度青臨技臨床一般部門研修会報告

八戸赤十字病院 阿部 紀恵

令和4年度の臨床一般部門研修会は、すべてWeb形式(Zoom)にて開催致しました。

第1回は令和4年9月29日(木)に開催されました。講演1としてアークレイマーケティング株式会社の尾野貴章先生より「腎疾患と関連する検査項目について」というテーマで、腎障害の診断基準となる検査値や、腎障害の早期予測マーカーとなる検査項目についてご紹介頂きました。講演2では、つがる総合病院の鳴海一訓技師に「認定一般検査技師試験 受験体験談」として前年度のご自身の合格体験をもとに、認定試験対策に必要な勉強方法や受験までの様子など貴重なお話を伺いました。

第2回目は令和4年10月29日(木)に開催されました。講師は岩臨技臨床一般部門長でもある岩手医科大学附属病院の畠山和枝技師に依頼し、「もう怖くない！髄液検査の基本」というテーマで講演して頂きました。髄液検査は原疾患によっては緊急性が高く、細胞算定や検査値からの病態推定などは一般検査担当技師でもハードルが高く感じられる検査項目です。講師の施設では新人・新任技師教育の一環として検査室内での勉強会を行っており、そのノウハウを生かした丁寧な解説のもと、基礎知識から講師が経験された希少な症例までご講演頂きました。

第3回目は令和5年3月9日(木)に開催されました。大テーマに「受け継ぐ！坂牛さんの鏡検力！」を掲げ、尿沈渣成分の鑑別において長年私達を導いてくださった坂牛技師から鏡検の極意を学ぶ研修会としました。講演1では「尿沈渣の声を聴く」として尿沈渣成分鑑別のポイントをたくさんの沈渣写真とともに詳細に解説して頂きました。また講演2は「坂牛さんに聞きたい！尿沈渣 Q&A」として参加者から事前に投稿された質問について講師から回答して頂きました。集まった質問は、坂牛技師の鏡検時のルール、いつも迷ってしまう沈渣成分の鑑別法、この先注目が集まる沈渣成分は？など多彩な内容でしたが、豊富な経験や知識から語られる回答は参考書を読むよりも深く納得できるもので、分からないことがあっても近くに相談できる人がいない、対面式の研修会でないと質問する機会もない、といったジレンマを少しは解消できたのではと感じています。

全3回とも県内外からたくさんの方に参加して頂き、研修会の必要性を改めて実感致しました。来年度からはWeb形式の利点も考慮しつつ、対面式の研修会や実習なども徐々に復活させていきたいと考えておりますので、今後とも皆様のご協力を賜れますようお願い申し上げます。

令和4年度青臨技臨床血液部門研修会報告

つがる総合病院 坂本 愛実

令和4年11月25日、青臨技臨床血液部門研修会がZOOMにて開催されましたので、報告いたします。

初めに「血小板について」と題して、八戸市民病院の石藤宥人技師にご講演いただきました。血小板数が初診で低値だったり、前回値に比べて大きく減少していたりしたら、私たちは血小板凝集確認を行わなければなりません。正確な検査値を報告するためには欠かせないことだと思います。講演の中では2つの血小板凝集像を見比べ、フィブリンが析出しているものとEDTAによるものとの違いを改めて確認しました。血小板の低値に遭遇したときの鏡検方法、EDTAによる偽性血小板減少が疑われた際は次にどのような検査を進めるのか、他の施設ではどのようにしているのか、私が知りたいと思っていた報告までの過程を学ぶことができました。

次に「赤血球恒数について」と題して、八戸市医師会臨床検査センターの尾崎由佳技師にご講演いただ

きました。MCV、MCH、MCHCについて解説していただき、貧血の分類に用いるだけでなく正しい測定の指標となることも知りました。また、MCHC 高値の要因として私は1番に寒冷凝集素による赤血球凝集を考えましたが、他にも遺伝性球状赤血球症や乳び検体、溶血検体といった様々な要因も考えられるということを知りました。赤血球凝集を起こしているときの対処法は自施設でも悩まされていたので、これからの検査業務に役立てていきたいと思えます。

最後に「リンパ球・単球・反応性リンパ球の鑑別について」と題して、青森県立中央病院の寺嶋駿技師にご講演いただきました。それぞれの細胞の核網、核形、細胞質といった形態的特徴を整理し、鏡検するときのポイントを解説していただきました。私が血液像鏡検で最初につまずいたのがこの3つの細胞の鑑別であり、いまだに難しいと思う時たまにあります。単球の活性化によって核網がリンパ球のように平滑な印象になることをここで初めて知ると同時に、これまで鑑別に悩むことがあった自分にも納得しました。今回の研修会では ZOOM の投票機能を使ってクイズ形式で答えることができたため、参加者全員が一体となって気軽に参加できたのではないかと思います。そして、基本を知ることの重要性を再認識できたと思えます。最後に、講師の方々、研修会の運営に関わってくださった方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和4年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告

八戸市立市民病院 臨床検査科 小島 瞳

令和5年1月28日(土)に、青臨技第3回臨床生理検査部門研修会がWEB開催されました。今回のテーマは「西の雄から超音波を学ぶ」とし、超音波分野は西高東低と言われる中で、西日本で活躍されている若手技師の方々の講演を拝聴できる貴重な機会となりました。

講演1 血管エコーでは、市立池田病院 衣川 尚知先生より「そのレポート…違う! そうじゃない!!」と題し、頸動脈エコー・下肢静脈エコー等の様々な症例を提示していただき、自分だったらどう報告するか、考えながら聞かせていただきました。検査を行う上で見落としがちな部分や、病態を考えてレポートにどのように記載するかなど話されており、とても参考になりました。自分のレポートの結果次第で、患者にとって不利益な事態を招くこともあることを理解し、前回値を鵜呑みにせず、臨床が納得のできる検査・レポートを記載することの重要性を学ぶことができました。

講演2 心エコーでは、大阪急性期・総合医療センター 荒井 鴻飛先生より「エコー室で5時 それでも必要なSHD評価～MR/AR～」と題し、解剖を含め逆流の機序、評価のポイントなどについてご講演いただきました。最大ジェットを得るためのコツとして、逆流ジェットに軸を合わせるため多方向だけでなく、肋間を変えるなど多断面での評価が必要であり、自分が今どこを描出しているか、繊細なプローブ操作を意識して行うことは重要であると再確認しました。そして、定量評価を含め、評価項目一つ一つの特性を把握した上で総合的に評価できる目を養うことがとても重要とのことで、各評価項目の考慮すべきポイントについても学ぶことができ、とても参考になりました。

講演3 消化管エコーでは、鹿児島医療生活協同組合 谷山生協クリニック 井出 雄大先生より「消化管エコーの基礎」についてご講演いただきました。私自身消化管エコーの経験がない中で講演を拝聴しましたが、消化管エコーの基礎から、稀な症例まで多くの症例提示をしていただく中で、初心者にもとても分かりやすく説明していただき、大変勉強になりました。画質が良いこと=良い画像ではなく、レポート記載がなくてもわかるように、説得力のある画像を記録できることが重要であると学びました。

今回、WEB開催ということで、青森にいながら西でご活躍されている先生方の講演を拝聴できる機会を得られたことに大変感謝しております。学ばせていただいたことを業務や後進の育成に活かし、臨床に貢献できるよう努めていきたいと思えます。

令和4年度青臨技臨床微生物/染色体・遺伝子部門合同研修会報告

むつ総合病院 玉澤 佳大

令和5年1月29日、Webにて青臨技臨床微生物/染色体・遺伝子部門合同研修会が開催され、3題の講演が行われました。

講演1では日本ベクトン・ディッキンソン株式会社の小林郁夫先生に「微生物検査の精度管理」について講義していただきました。検体採取から始まり塗抹、培地の用法、同定感受性に至るまで一連の流れの中で正確な検査を行うためのポイントを聴くことができました。基本的なことですが、血液培養や喀痰培養採取の手技の差がどれほど検査結果に影響するのか統計を見せていただくと、検体採取の大切さや検査技師が介入していくことがいかに重要であるかを改めて認識させられました。

講演2ではビオメリュー・ジャパン株式会社の見付聡先生が「耐性菌について(GNRを中心に)」という演題でCRE、CPEのことを中心にお話しされました。β-ラクタマーゼの型の種類や特徴、それら毎に行う検査を説明して頂きました。また通常の検査では検出されないステルス型が存在し、その検出をいかに行うかが問題となっていることも知ることができました。

講演3では東ソー株式会社の坂口陽祐先生に「遺伝子検査のご紹介」と題して、PCR法やTRC法を中心に抗酸菌と新型コロナウイルスのことを絡めて講義して頂きました。基本的な原理や結果解釈の仕方をはじめ、菌の遺伝子検査における死菌の影響や新型コロナウイルス変異株の発生の仕方など、普段疑問に思うことまで細かく解説して頂きました。

今回の研修会は微生物検査に携わっていれば避けては通れない重要なテーマばかりで大変勉強になりました。講師の先生方、またこのような貴重な機会を設けていただいた関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

令和4年度第4回生理検査機能部門研修会（精度管理報告会）報告

弘前大学医学部附属病院 武田 美香

令和5年2月17日に、令和4年度青臨技臨床生理部門研修会（第4回）を開催し参加致しました。この研修会では令和4年度の青臨技精度管理調査の設問解説を各出題者にお願ひしました。生理機能検査部門では数年前から、精度管理委員と出題協力委員の複数人で出題をしています。全部門合同で行われる青臨技精度管理講習会では、時間制限や登壇する人数の都合で全問の解説が困難です。そのため、今回初めて生理機能検査部門のみで報告会を開催しました。初めに精度管理委員である青森市民病院の三浦 千寛さんから、総論、心電図、超音波の設問に関しての解説がありました。心電図は全ての設問で正答率が7割を超えていました。最も正答率が低かった虚血に関する設問では、心エコーの短軸像とあわせて虚血の部位診断をわかりやすく解説して頂きました。超音波の出題は腹部エコーのみが正答率が8割に達する事が出来ませんでした。しかし、消化管エコーに取り組んでいる施設が少ない中で消化管エコーを学ぶきっかけになったのではないかと個人的には思いました。次に青森県立中央病院の佐藤 舞さんから肺機能検査に関しての解説をして頂きました。肺機能検査は心電図に次いで参加施設数が多い分野になります。青森県では精度管理に肺機能検査を出題してから数年ですが、心電図と比較すると毎年正答率が低めの分野になります。しかし、呼吸機能検査のハンドブックを熟読すれば回答を導けるのではないかと個人的には思いました。佐藤さんの方からは、そのハンドブックの内容を軸に大変わかりやすく説明して頂きました。最後に、弘前大学医学部附属病院の佐藤 めぐみさんから脳波に関しての解説を頂きました。脳波も肺機能検査と同じ時期に出題が開始されましたが、今年は正答率が低かったです。皆さんが引っかかってしまった箇所を中心に解説して頂きました。患者背景の確認をするという生理検査に携わる者としては大変重要な部分を問われる設問でした。また普段の業務で記録する際に、波形を理解しているか問う設問もあり、

個人的には良問だと思いました。今回初めて生理機能検査部門のみで報告会を開催しましたが、一問一問に時間をかけて解説頂いた事で大変理解も深まりました。又、皆さんとディスカッションする場を設けられた事は大変有益でした。今後とも精度管理の報告会は続けて行って欲しいと個人的には思いました。

令和4年度青臨技生物化学分析部門研修会報告

青森市民病院 三上 悠輔

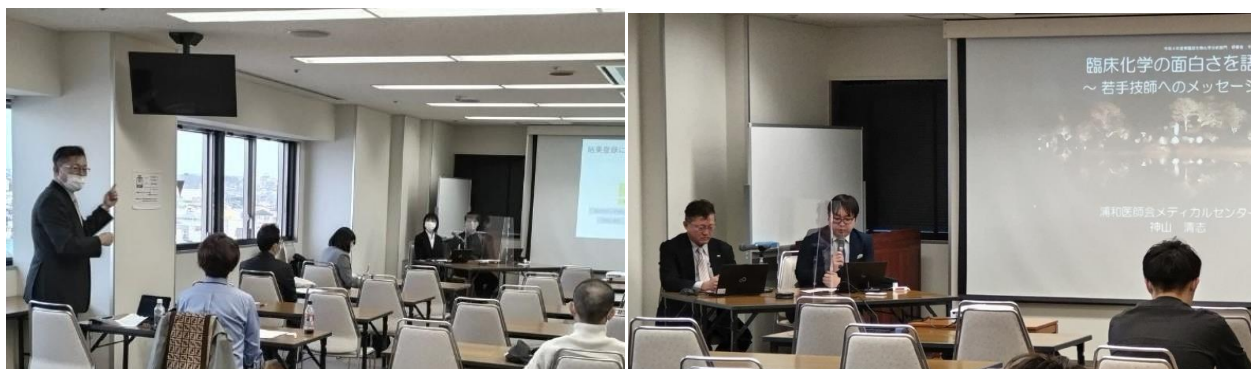
令和5年2月18日(土)、八戸ユートリーで現地開催とLive配信のハイブリッド形式で「令和4年度青臨技生物化学分析部門研修会」が開催されました。当日は現地参加12名、Web参加36名の合計48名が参加されました。研修会では一般講演3題、教育講演、特別講演が行われました。

まず、「教えてください!!あなたの施設の日当直業務、新人教育」と題して県立中央病院の手代森隆一技師、八戸市民病院の木原千明技師、十和田市立中央病院の前山宏太技師から各施設での日当直業務や新人教育について紹介して頂きました。各々の病院には新人教育が円滑に進むように様々な工夫がありました。その中には自施設でも参考にしたい点がいくつもあり、今後当院での新人教育に活かしたいと思いました。

次に「検査業務において遭遇する可能性のあるピットフォール」と題して積水メディカル株式会社の野上里恵先生より教育講演が行われ、機器や試薬のトラブル、採血不備によるデータ異常などについてわかりやすく解説して頂きました。

最後に「臨床化学の面白さを語る～若手技師へのメッセージ～」と題して浦和医師会メディカルセンターの神山清志先生より特別講演が行われ、分析化学の基礎や生化学検査担当技師に必要なことをピットフォール症例や測定値の見方を通じてわかりやすく解説して頂きました。特に印象に残ったのは神山先生が「分析装置は技師の手足であり、手法を機械に代行させているだけ」とお話しして、装置の動作や試薬パラメータ、反応過程を覚えることの大切さを解説したことです。検査値から患者の状態を推測することは私も日々鍛えています、試薬組成や機器構造の理解はこれまでおざなりになっていて、私はハッとすると同時に改めて生化学を勉強しようと意欲が湧いてきました。

今回の研修会は、各病院での新人教育の環境整備や改善に有用であったことに加え、生化学検査担当技師の知識やモチベーションの向上に大きく寄与した研修会だったと思います。本研修会を企画・運営してくださった方々、講師の方々に深く感謝申し上げます。



【理事会議事録】

令和4年度第6回理事会議事録

1. 日 時：令和5年1月23日（月）18：30-20：15
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、
小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、國分慎、四釜育与、
田村栄子、吉岡治彦、齋藤浩治、石山雅大
3. 欠席者：木村正彦、河村義雄

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
特になしと報告があった。
2. 公益部経過報告
特になしと報告があった。
3. 渉外部経過報告
特になしと報告があった。
4. 事務局経過報告
特になしと報告があった。
5. 奥沢会長より報告
1/21（土）東京：日臨技理事会開催
・臨地実習指導者講習会の受講制限が解除された。
次回3/12開催（事前受講約500分が必要）
・タスク・シフト/シェア指導講習会開催は受講者数割れが生じる場合への対応として、
4月以降、都道府県の縛りが無くなる。
・6/24（土）令和5年度定時総会・70周年記念式典開催（目黒雅叙園）

【議題】

1. メーカー研修会について、会員への周知事項の見解統一
賛助会員の場合、研修会をHPへ掲載していた。賛助会員以外の場合は理事会にかけて掲載するかどうかが決定していた。今後も同様の対応とする。
2. 理事交代が発生した場合について
定款上は任期が2年なので継続が基本だが、特別な事情がある場合は総会にかけて承認を得なければならない。
3. 第47巻会誌、70周年記念号作成の進捗状況について

① 第 47 巻会誌

- ・支部便りで修正が必要な部分を確認している。また、各支部でレイアウトが異なるため統一した方がいいのではないかという意見が出ている。
- ・文章を修正した場合、() を足す程度であればサイボウズのファイル管理内の文章は変更しない。但し、文章の表現などを大きく修正する場合は一度支部に戻して確認してもらう。

②70 周年記念号

- ・1 月下旬から 2 月上旬にファイル完成予定。
- ・日臨技の北日本支部における功労賞や奨励賞について齋藤浩治監事に確認した。東北臨床検査技師会だった頃は功労賞や奨励賞があったが、日臨技の北日本支部になった時点で功労賞は無くなった。奨励賞は学会で発表した方を対象に表彰していた。
- ・60 周年記念号の前年の県の功労賞と奨励賞の記載が無かったため、会報の 36 号もしくは 37 号に記載されているかどうか事務局で確認することとなった。

4. 精度管理について

- ・報告会の開催日時、方式
2 月下旬もしくは 3 月上旬に Zoom での Web 開催とする。
詳しい日時は吉田副会長がサイボウズ上で各部門長と相談して決める。
- ・施設参加証の作成
フォーマットあり。印刷後に会長の公印を押して郵送するが、日臨技の会員がいない施設には送らない。次回からは参加時に会員番号の入力を義務付ける。

5. 青森県医師会精度管理について、現状報告

毎年、比較的多くの施設で記入ミス（誤入力、データ桁違い等）が発生している。最終的に医師会へまとめて報告するにあたり、記入ミスは重大な問題である。サイボウズで意見を出し合い、対策を考えていくこととなった。

6. 会誌投稿規定の修正等について

今まではなるべく日臨技に合わせて修正してきたが、完璧ではないのでより良くなるように直してもよいのではないかという意見が出た。投稿規定を修正する場合は理事会の承認が必要。

7. 奨励賞、功労賞について

- ・奨励賞は今のところ申請なし。自施設に候補者がいないか確認する。また、部門長にも候補者探しを打診する。
- ・功労賞は候補者が 4 名。
 - 1, 野坂 享治 (ノザカ キョウジ) 青森市民病院
 - 2, 中村 洋子 (ナカムラ ヨウコ) 弘前市医師会健診センター
 - 3, 米沼 順子 (ヨネヌマ ジュンコ) 下北医療センター むつ総合病院
 - 4, 千葉 祐二 (チバ ユウジ) 公益財団法人シルバーリハビリテーション協会
メディカルコート 八戸西病院理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

8. 永年会員の会員証について

日臨技を退会すると会員証の返却を求められる。会員番号は生きていて青臨技永年会員として在籍するが、証明するものがないため、研修会等の参加の際に困惑するという事例が発生した。永年会員の人数はそこまで多くないため名刺サイズの会員証を作って配布してはどうかという提案があった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

9. 第72回日本医学検査学会の座長依頼について

生物化学（十和田市立中央病院 前山宏太技師）、病理（弘前大学医学部附属病院 熊谷直哉技師）で各1名決定。

施設より旅費の補助がないため、技師会より出してよいか。という提案があった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

10. 県学会の進捗状況について

インフォメディアリと会場のプラザホテルむつに通信状況を確認してもらった。特別講演はこれから探す予定。ランチョンセミナーは事務局から賛助会員へ連絡し、応募してもらう。前回の演題募集は1月に開始しているので今回も同じタイミングで演題募集の依頼をかける。演題募集の締め切りや抄録の提出日も早めにアナウンスが必要。総会と学会を同日に行うかどうか、前回から修正した方がよい部分も含めサイボウズで意見を出して決めていくこととなった。

11. 高校生心電図の人員削減依頼について

県医師会より、県内の高校生は現在7,000人台と減少しており高校生心電図への技師の派遣が割に合わなくなってきている。技師の派遣人数を現状の2ベッドに対して3人から2ベッドに対して2人へ変更してはどうかという提案があった。変更しない場合は日当が11,000円から8,000円程度まで下がる見込み。日当は高校生が10,000人以上いた時代は13,000円だったが、10,000人を切った時に現在の11,000円へ変更されている。

参加理事からは派遣技師を減らすことによって今まで高校生心電図を担ってくれていた技師の負担が大きくなることや、午後から実施した場合時間内に終わらない可能性があるといった問題点が挙げられた。現状を理解してもらうために県医師会とZoomで直接交渉する方向で進めることとなった。

12. HP担当者が諸事情により情報をアップロードできない場合の対処について

HP担当者が情報をアップロードできない時期があり、一斉メールで凌いだ。

同様の状況が発生した場合、今後も一斉メールで対処することとなった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

【その他】

1. 第72回日本医学検査学会について

演題数が目標の500を達成した。

2. 第49回日本診療情報管理学会学術大会（9/14～15開催）

後援依頼を引き受けた。

3. 地域ニューリーダー育成研修会について

逆井久美子事務局長が参加予定。今後もニューリーダーを人選していく。
研修会の青臨技の負担金は約3万円。
負担金について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

4. 都道府県災害マニュアル説明研修会について
木村正彦副会長、須藤安史渉外部長が参加予定。
5. 会計に関して
令和5年度の予算案を作成した。
修正箇所などサイボウズで意見を出し合うこととなった。
6. 県自治体病院協議会について
来年度共催する。
7. 事業計画について
令和5年度の事業計画を作成した。
修正箇所などサイボウズで意見を出し合うこととなった。
8. 臨地実習指導者講習会について
令和4年入学者の臨地実習から、臨地実習指導者を1名以上配置する施設でのみ、臨地実習を行えることとなるため、県全体で協力が必要。
9. タスク・シフト/シェア講習会について
令和4年度は5月15日に57人、12月25日に52人受講。実務員7人は令和3年11月に仙台で受講しているため、県全体で合計116人が受講済み。現在、Web講習受講済みが84人、受講中は79人となっている。令和5年度の講習会1回目は5月14日を予定している。受講生50人以上を確保することと、2回目を開催するためにもWeb講習の受講を促す必要がある。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和4年度 第7回理事会 議事録

1. 日時：令和5年3月28日（火）18:00-19:30
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、
佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、
國分慎、田村栄子、齋藤浩治、石山雅大
3. 欠席者：四釜育与、吉岡治彦、河村義雄

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より精度管理について以下の報告があった。

精度管理講習会が無事終了した。各部門の報告書をまとめたものをHPに掲載予定。各部門の報告書はHPのどこに掲載するかを検討する。各施設へ参加証を発送した。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より令和5年度高校生心電図検診について以下の報告があった。

- ・令和5年度高校生心電図検診の進捗状況（3月28日現在）
各地区における日程調整と派遣技師の割り振りを実施している。
東青地区で調整が難航しているが、他の地区ではおおむね調整が完了した。
- ・令和5年度の派遣技師に対する日当（前年度と同じで進めている）
日当5,000円＋交通費1,000円（タクシー利用の場合は実費）、日臨技非会員に対して医師会で保険をかけてくれる。
- ・時間報告書/連絡簿
検査終了後に記入してもらい心電計とともに医師会へ返却。
連絡簿については、後日医師会から写しをもらう。
- ・現在、新型コロナ感染者と同居している場合は（いわゆる濃厚接触者の状態）、無症状であっても控える。
- ・マスク：派遣技師にはサージカルマスクをお願いする。
（返事は来っていないが高校生と先生にもマスク着用をお願いしている）
- ・フェイスシールド、アイガード：着用を指定しない。
- ・白衣：個人（職場）の白衣を持参
自宅会員で要望がある場合はディスポのガウンを支給予定
- ・速乾性手指消毒剤：医師会で準備

木村公益部長より以下の提案があった。

- ・下北支部では大間まで移動する必要があるため、自家用車を使用した場合は往復2時間程度。このように1,000円を超過する場合の交通費をだまかに3,000円等と決めるか、青臨技旅費規程にしたがい会計担当に計算してもらるか審議したい。
⇒旅費規程で算出し、バス代で支給することとなった。
- ・各支部事務局の技師派遣調整作業を会議としたい（日当を支給）。
⇒時間をかけて議論していく必要があるため今回は保留となった。
- ・派遣技師の健康観察を当日のみとするか2日以内とするか審議したい。
⇒当日に呼吸器症状（咳や咽頭痛など）や、発熱（37.5℃以上）が認められる場合は控えることとなった。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より各都道府県の災害対策マニュアルについて以下の報告があった。

2/16に日臨技の災害対策マニュアル説明研修会に参加した。日臨技としては早めにマニュアルを作成してほしいとのこと。まずは青臨技でマニュアルを作れる部分作り、日臨技や都道府県との情報連携を構築していく。最終的には諸団体と交渉して協力を求めていきたい。現段階で県と協定は結んでいない。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より特になしと報告があった。

5. 奥沢会長より報告

3/25（土）：日臨技理事会開催

- ・2023年5月20日 メッセ群馬・高崎芸術劇場 演題数922名
- ・認定心電検査技師制度資格 受験者数100名から応募が増加したため、200名枠とした。
- ・新型コロナウイルスが「2類」から「5類」になった時点で、ワクチン接種はできない。また、鼻咽頭ぬぐい検体採取は、厚生労働省指定講習会を受けていない技師で担当していた方も実施できない。

【議題】

1. 名誉会員の承認

- ・山崎 正夫
- ・川村 多蔵

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 理事推薦の承認

河村理事の定年に伴い、三八支部から後任者として中村忠善氏が推薦された。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. 永年会員の承認

- ・久保 忠利 ・奥瀬 真利子 ・三橋 栄子 ・坪田 裕美子 ・鈴木 登美代
- ・佐々木 悦子 ・堰合 淳子 ・久保 弘子 ・武部 郁枝

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

4. 奨励賞、功労賞の承認

奨励賞

- ・大井 惇矢 ・佐藤 舞 ・澤谷 泰子 ・田嶋 育子

功労賞

- ・野坂 亨治 ・米沼 順子

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

5. 発表要旨集について

昨年度はHP掲載し、印刷はしなかった。今回の県学会も同様の対応でよいか。という提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

6. HPについて

現在、HP委員は4人で連携しているが、実際のHP更新の業務は一人しか行えず、コンピューター用語を用いた専門性の高いプログラムを用いている。そこで、外部業者により専門知識不要なプログラムのWordPressに形式を変更し、公開されているページの管理や、テキスト・画像の更新、新着情報を投稿形式で行えるものに作り替えることによって管理する複数人によって更新可能とし、担当者の負担を軽減したい。という提案があった。

どこまで負担が軽減するか判断するために近日中に zoom で業者に紹介してもらおう。
その後、理事会で再度提案することとなった。

7. 青臨技会費未納者について
会費未納者 5 名に事務局から直接連絡することとなった。
8. 賛助会員以外のセミナーについて
賛助会員ではない中外製薬からセミナーのお知らせが来ている。HP に掲載するかどうか理事会で確認したいという提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
9. 令和 5 年度予算案について
会計より令和 5 年度予算案について提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 総会資料について
これから作成する。議案書は印刷屋から直接施設へ送付していただく形で準備したい。
2. 県学会開催進捗状況について
決めなければいけないところはおおむね決めた。今後はホテルと Web 会社と細かい部分を詰めていく。
総会の司会は下北支部から、議事録は理事から、議事録署名人は下北支部以外から選出する。
3. 第 47 巻会誌、70 周年記念号作成の進捗状況について
確認作業が終わり、印刷業者に発注した。
4. タスク・シフト／シェア講習会について
現在の申込者は 48 人。残りの枠は 12 人。
5. 日本臨床検査技師連盟執行委員会からのお知らせ
宮島会長に代わるような知名度のある方を探し、再度臨床検査技師から国会議員を当選させなければ今後の業務拡大は難しい。そのためにも連盟に加入する技師を増やすことが必要。
6. ニューリーダー研修 報告
逆井事務局長よりニューリーダー研修の報告があった。令和 5 年度も新たな受講者を輩出する必要がある。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和 5 年度 第 1 回理事会 議事録

1. 日 時：令和5年5月9日（火）18：00-19：20
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、國分慎、田村栄子、四釜育与、齋藤浩治
3. 欠席者：須藤安史、吉岡治彦、河村義雄、石山雅大

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田副会長より学会・研修会開催内容（予定も含む）について以下の報告があった

2023/04/26 令和5年度 第1回青臨技東青支部研修会（Zoom開催）

「微生物検査の精度管理について」 参加登録：19名

2023/05/10 令和5年度 第2回青臨技東青支部研修会（Zoom開催予定）

「肝炎 基礎から最新の知見まで」

2023/06/03 青森県輸血療法懇話会（Zoom開催予定） 14：00～16：30

第1部 血液事業の近況から

第2部 皆さんの疑問にお答えします

第3部 特別講演

2023/06/18 第49回 青森県医学検査学会（むつ市）

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。

6月頃までかかる地区もあるが、一部の地区ではすべて終了している。

3. 渉外部経過報告

特になしと報告があった。

4. 事務局経過報告

特になしとの報告があった。

5. 奥沢会長より報告

・三村知事より青森県臨床検査技師会に新型コロナウイルス感染症対策功労者への感謝状が贈られた。

HPに掲載し、全体にも一斉メールでお知らせする。

・「厚生労働大臣表彰」受賞者が下記の2名に決定した。

齋藤浩治（青森市民病院）

石山雅大（弘前大学医学部附属病院）

表彰式は6/24に東京で開催される創立70周年・法人化60周年記念式典にて執り

行われる。

【議題】

1. 令和5年度青臨技総会について
令和5年度青臨技総会を6/18（日）にプラザホテルむつにてハイブリッドで開催し、功労賞と奨励賞の表彰も行いたいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
2. 総会議案書の内容について
逆井事務局長より事業経過報告、川口理事より会計報告、齋藤浩治監事より会計監査報告があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
3. 学会・研修会のWeb開催について
新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、徐々に対面式の学会・研修会に戻りつつあるが、参加する機会を増やすためにもWeb開催の方式を残しておく、柔軟に対応したいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
4. 地域ニューリーダー育成研修会について
当研修会への参加を今後も継続して推進していきたいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
5. 検査と健康展について
日臨技から検査と健康展を開催してほしいとの依頼があった。予算は日臨技から支払われる50万円。
須藤渉外部長を中心に企画運営し、開催する方向としたいとの提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 精度管理における記入ミスへの対策について
各施設へ回答を提出するときどのような対応をしているかアンケートで確認する方向となった。
2. 高校生心電図について
高校生と触れ合える機会なのでネームプレートやパンフレットなど、臨床検査技師をアピールする方法を検討することとなった。
3. 県学会開催進捗状況について
 - ・演題数 5/9 時点 22 題
 - ・ランチョンセミナー：シーメンスヘルスケア
 - ・特別講演：青森県立中央病院 北澤淳一先生
 - ・現地発表を基本としていたが、Web発表にも対応する。
 - ・演題数が想定より多く時間調整が必要な為、会場の利用時間を1時間延長した。
 - ・採否通知のメールを使用してWeb発表か現地発表か問い合わせる。動作確認のために発表資料は前日までにメールに添付またはCDで下北支部へ送っていただく。

- ・要旨集や派遣依頼文書の作成のため、抄録を部門別に分類したものを 5/16 までサイボウズで吉田副会長へ送り、座長を 5/26（金）までに決定する。Web のトラブルなど何があるかわからないので座長は現地参加していただく。
- ・パソコンが最低 3 台必要（発表用 1 台、受付用 2 台）
奥沢会長、吉田副会長、逆井事務局長からそれぞれ 1 台ずつ借りる予定。

4. タスク・シフト/シェア講習会について

5/14（日）は 1 人キャンセルが出て 59 人が参加予定。

5. 青臨技 HP について

現在、吉田副会長が試作品を作成している。業者からそろそろ最終決定してほしいと問い合わせが来ているため、情報をどこまで載せるのか等サイボウズで意見を出し合うこととなった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和 5 年度 第 2 回理事会 議事録

1. 日 時：令和 5 年 6 月 17 日（土）13：00-14：00
2. 場 所：プラザホテルむつ（プラザホール）
むつ市下北町 2-46 Tel：0175-23-7111
3. 出席者：奥沢悦子、木村正彦、逆井久美子、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、國分慎、田村栄子、四釜育与、齋藤浩治、石山雅大
4. 欠席者：吉田泰憲、須藤安史、川口裕美、吉岡治彦、河村義雄

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【議題】

1. 青臨技 HP 更新について
逆井事務局長より青臨技 HP の更新にかかる費用が約 45 万円となったが、このまま更新してもよいかという提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 論文の投稿規程について

逆井事務局長より論文投稿の入力フォームを日臨技に倣って修正したものに変更したいという提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. 今後の学会の開催形式について

奥沢会長よりハイブリッド形式での学会開催はどこの地域においても参加できるというメリットが大きいため、今後も継続していきたい。ただ、業者に依頼すると費用がかかることも事実なので、Zoomウェビナーの契約など自力でのハイブリッド開催を検討していきたいという提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。